

## マーケット概況（2023年4月）

4月の債券相場は、前月末発表の4-6月国債買入予定で各主要年限のレンジの下限額が引き下げられたことなどを背景に売りが先行し、債券先物6月限は前月末比45銭安の147円67銭で取引を開始した。4日の10年債入札の結果が不調だったことに加え、3月米国雇用統計が市場予想の範囲内となり米国景気後退への警戒感が和らいだことから下げ幅を拡大したが、植田日銀総裁の就任会見で現状の金融緩和政策を維持する方針が示されると反発した。しかし、FRB高官のタカ派的な発言により米国の金融引き締め長期化観測の再燃から米債利回りが上昇すると再度売りが優勢となり、10年370回債の利回りは0.480%まで上昇し、債券先物6月限は147円27銭まで下落した。YCC政策修正について日銀内で慎重な見通しが広がっているとの報道で下げ幅をやや縮小した後は方向感の定まらない展開が続いたが、28日の日銀金融政策決定会合で現状の政策維持が決定されると買いが優勢となった。これまでの政策について今後1年から1年半程度をかけ多角的にレビューを実施すると発表され、現状の政策がしばらく継続するとの思惑から騰勢を強め、10年370回債の利回りは0.385%まで低下し、債券先物6月限は夜間取引で148円89銭まで上昇した。

### <短国市場>

新年度に入り、3日の3M1148回債入札は水準調整から-0.15%台での着地となったが、引き続き短国需要は根強く、セカンダリーでは-0.19%台後半で取引された。7日の3M1150回債入札は、想定よりも強めの-0.18%台後半での着地となり、落札不明額も多く、入札後は-0.300%まで金利低下し取引された。中旬以降は投資家需要が一服し-0.170%台で推移したが、担保需要は依然根強く、月末にかけては-0.185%で取引を終えた。6M・1Yも担保需要底堅く順調な入札となった。-0.14%台で消化された6M1149回債は入札翌日には-0.185%まで金利低下した。また、-0.15%台で一定量玉確保の札が入った1Y1152回債入札は-0.12%台着地となったが、-0.150%で取引され終えた。

### <一般債市場>

3月の日銀決定会合での現状維持や欧米での金融不安を背景に国債利回りが低下するなか、10年地方債が前月から国債対比5.0bpワイド化の+30.0bp、5年地方債も同3.0bpワイド化の+15.0bpで条件決定されたことが好感され、投資家による期初の買いも相俟って順調に消化された。既発債も期初の買いなどから月を通して良好な地合いが継続した。SDGs債関連では、SONPOホールディングスが国内保険グループとして初のソーシャルボンドを発行した。社債は、発行銘柄数は前月や前年同月から大きく減少したものの、1銘柄当たりの発行額は大きく増加したため、発行額は前月から小幅減少の1兆1,678億円と前年同月並みとなった。

### ◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#370	0.455(4日)	0.385(28日)	0.480(17日)	0.385(28日)
#369	0.340(3日)	0.340(3日)	0.430(18日)	0.370(28日)
#359	0.280(3日)	0.230(28日)	0.320(17日)	0.230(28日)
#156-#157(5Y)	0.105(3日)	0.100(28日)	0.165(17日)	0.100(28日)
#183-#184(20Y)	1.045(3日)	0.990(28日)	1.130(21日)	0.990(28日)
#1143-#1149 TDB(6M)	-0.170(6日)	-0.185(7日)	-0.170(6日)	-0.185(7日)
#1148-#1153 TDB(3M)	-0.170(3日)	-0.300(7日)	-0.170(3日)	-0.185(24日)